

令和3年度 千早赤阪村立学校 評価報告書

学校名（千早赤阪村立中学校）

校長名（近藤和浩）

1. 教育目標

本校教育方針

『確かな学力をつける 豊かな心を養う 健やかな心身を育てる』

本年度の学校教育目標

『新生村中 Change&Challenge』～ 授業改革と学校改革に挑戦しよう! ～

めざす学校像 豊かな自然と少人数指導でのびのびと過ごせる学校

めざす生徒像 自分で考え、表現し、学びに向かう姿勢を持つ生徒

めざす教師像 明るく、優しく、前向きで謙虚な姿勢を忘れない教師

2. 経営方針

- ① 授業改革:新学習指導要領完全実施で、知識習得から考える授業へ
知識の教え込みから、主体的・対話的で深い学びのある授業へ
授業時間の中に考える時間を持つ授業を実施する
1時間の授業の「めあて」「ふりかえり」を大切に
- ② 学校改革:学校組織改革に向けて教職員全体でより良い学校運営を目指す
PDCAによる学校評価を教職員全体で実施していく
一人ひとりが、組織改革の意識を持ち取り組む

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 学力の向上と教育力の充実
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の導入に伴う評価(授業改善)方法に関わる情報提供や支援を研修部や学力向上担当と連携し適切に行う。【教務部】 ・生徒の主体性を引き出し「生きる力」を養い、自己肯定感が高まる学校教育の推進【研修部】 ・ギガスクール(ICT)を活用した生徒主体の学ぶ喜びが実感できる授業の展開【研修部】 ・一人一人の特性に配慮し、生徒に合わせた支援の充実を目指す。また、専門性の向上をめざし研修等を実施し、家庭や地域、各関係機関との連携を深める。【支援教育推進委員会】
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・3観点への移行に伴って、4月や7月に評価のつけ方を確認し、各教科が1学期の評価をつけたあとの9月には、その振り返りを促す提案を行った。【教務部】 ・千赤スタンダード(読む・書く・伝える)を提案し、各教科の授業で取り入れることによって、能動的な授業展開を提案。【研修部】 ・研修会や公開授業などでICTを使ったさまざまな授業展開を提案し、生徒の主体性を引き出す授業づくりのサポートをした。【研修部】 ・会議内で情報交換を密にし、それぞれの生徒に合った支援体制の構築・実行を行った。【支援教育推進委員会】
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の3観点への移行はおおむねスムーズに行えた。【教務部】 ・各教科で千赤スタンダードを取り入れ、能動的な授業を行えた。【研修部】 ・ICTを活用した生徒主体の授業を公開し、小・中の先生方と意見交換することができた。【研修部】 ・会議内での情報交換をもとに、それぞれの生徒に対する支援体制を構築できた。【支援教育推進委員会】
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・特に問題なく進められたので、本年度の評価関連の文書やシートを保存、申し送りをして、来年度もスムーズに動けるようしておきたい。【教務部】 ・研修部が中心となって、来年度も千赤スタンダードを授業者が意識し、授業計画をすることを旨とする。【研修部】 ・今年度以上にICTを活用した授業が広がるよう研修や授業提案をしていく。また、家庭学習に活かせるよう研究していく。【研修部】 ・さまざまな状況にも対応できるよう、今年度以上に情報交換を密にし、支援教育関連の研修も行っていきたい。【支援教育推進委員会】

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅱ 豊かでたくましい人間性の育成
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育全般を通じた心を耕す教育（道徳・人権教育等）の推進【研修部】 心を耕す教育の目標 ○人の在り方を真剣に考えさせる ○正しく判断し、よりよい解決を図ろうとすることができる力を育てる ○仲間を大切にし、ともに伸びようとする力を育てる ○人間尊重の精神を涵養し、差別を許さない集団づくりに努める ・栄養教諭や地域の方とも連携し、味噌づくりをはじめとする食育に力を入れていく【保健室】
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に研修部の中で、各学年の道徳・人権教育について話し合った。また、道徳の研修会や研究授業を行うことで今まで以上の道徳教育の推進を図った。【研修部】 ・今年度は、今までの人権教育の学習計画を見直し、3 学年の横断的人権課題と各学年の中心人権課題を決め取り組みを始めた。【研修部】 心を耕す教育の目標に対しては ○道徳の内容を研修部で議論し合い、人の在り方について考えさせる授業展開を目指した。 ○3 学年の横断的人権課題の設定により、3 年間を見越し、それぞれの学年の成長段階に合わせた学習ができるようになり、正しく理解し、問題を解決する姿勢が見られた。 ○修学旅行などでクラスミーティングを開き、仲間を大切にし、ともに伸びようとする機会を作った。 ○各学年の中心人権課題の設定により、他者に共感・理解する姿勢を養い、いじめや差別を許さない集団づくりを目指した。 ・栄養教諭・地域の方と連携し、1年生で味噌づくりを行った。栄養教諭・教科担当・養護教諭で事前指導をし、味噌作り当日には、上記教員に加え、地域の方にも講師として来ていただいた。【保健室】
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科に関して、研修や研究授業をすることによって、それぞれの教師の改善点を互いに共有できたことによって、全体の授業改善につながった【研修部】 ・人権学習の内容を見直したことによって、今まで以上にそれぞれの人権課題について深く学習することが出来た。【研修部】 ・学校・地域の方と共に1年生で味噌づくりを行うことができた。新型コロナウイルスの影響で、出来上がった味噌での調理実習を行うことができなかった。【保健室】
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科に関して、今年度以上に心を耕す教育を達成できるような教材開発をしていく。【研修部】 ・今年度できなかった人権学習の研修を行っていきたい。【研修部】 ・今年度できなかった味噌を使った調理実習を、来年度に行う。また、来年度も新1年生で味噌づくりとその味噌を使った調理実習を行いたい。【保健室】

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 安心安全な学校づくりの推進
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「自信と意欲を持った集団、支え合える仲間づくり」 ～みんなが生き生きと元気な、活気ある学校に～【生徒指導部】 基本方針 ○学ぶ喜びを見つける生徒 <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しく、正義の通る集団 ・一人ひとりの良さが集団の中で発揮できる ○思いやるやさしさを身に付けた生徒 <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの個性を認め合い尊重しあえるような集団 ・他の人への気配りができる ○弾むたくましさにあふれる生徒 <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつができる ・行事等に全力で取り組むことができる
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談(学期に1回) ・環境整備・安全点検(学期に1回) ・クリーンキャンペーン(12月実施) ・登下校指導(学期に3回) ・避難訓練(学期に1回) ・薬物乱用・犯罪防止教室(7月実施) ・生徒指導内容の校内研修 ・交通安全教室(4月実施) ・校内生徒指導連絡会(週に1回) ・支援教育推進委員会(月に1回) ・千早赤阪村立小中学校生活指導連絡協議会(月に1回) ・生徒会活動・委員会活動
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・SC や SSW から生徒と対応するうえで貴重なアドバイスをいただき、それを活用することができた。 ・適応指導教室の存在が学校としては非常に助けられた。不登校生にとっての居場所が作れたことが一番大きいし、ズームを通して学校とくすのきルームが繋がり、子どもの顔を見れたのも良かった。 ・村小中生活指導連絡会での情報が、中学校でも兄弟関係から対応できることが多かった。 ・教育相談の時間確保が難しかった。現状の5日間では、現実難しいものがあった。 ・下校時の生徒指導事案と地域における不審者が数回あり、地域から登下校中での指摘も例年と比較すると多かった。ただし、何か問題があれば臨機応変に対応は出来た。 ・校内研修における生徒指導部主催の研修では、有意義な内容であった。 ・環境整備・安全点検における修復の実現が出来ないことが多かった。
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・SC や SSW との連携を密に測りながら、各関係諸機関や小学校の先生も含め情報交換を行い対応していく。また、SC や SSW や CSW や社会福祉士が生徒指導の定例会や情報交換の場に参席してもらえるようになると、より幅を持った対応が行える。 ・くすのきルームとの連携は継続しながらも、くすのきルームと中学校の交流をより強めていく。具体には、中学校の教員がくすのきルームに顔を出すことから始め、窓口になればよいと考えている。 ・小中加配の先生(理科・音楽)が、生徒指導に積極的に携わっていただけると、小中との情報交換が図りやすいケースもあり、中学校では見えない部分や背景などが分かり、解決の糸口に繋がるようなこともある。 ・登下校指導や地域の巡回の回数を増やして定期的を実施する。 ・制服の移行期間に対する対応。 ・頭髪指導の難しさ。 ・校則の改定。 ・自転車通学生の距離の見直し。

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		IV 学校及び教職員の資質の向上
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価を教職員全体で共通理解し、PDCAの形で「重点目標」を立て、取り組み、成果と課題を検証し、翌年につなげる。定着まで時間はかかるが、より良い学校運営の礎を作る。【校長】 ・教職員が積極的に研修に参加することを奨励し、教職員の授業力向上を目指す。また、校内での研修も充実するよう研究授業や授業公開を積極的に行えるよう計画を立てる。【研修部】 ・学校の教育活動が円滑に運営されること。(時間割、チャイム、行事予定等)【教務部】 ・業務の効率化を進めること。(成績処理・評価に関わる業務)【教務部】 ・地域に開かれた学校を目指し、地域や保護者の声を聴いて改善すべきところを改善していく。また、連携協定を結んでいる大学や博物館等との教育活動について検討する。【校長】
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価のPDCAを全体で形にしていくため、重点目標を各部会に記入してもらったり、各部会が学校計画に示したのから(P)として載せたりして意識付けを行った。また、それをもとにして、今年度実施したものを取り組み内容(D)として記入して進められた。【校長】 ・各学期に研究授業を行い、それに併せて授業参観ウィークを計画し授業力の向上に努めた。また、今年度は、特別支援・ICT・道徳の職員研修を行った。【研修部】 ・新型コロナによる行事の変更や天候による時間割変更などを、スムーズに行えた。【教務部】 ・3観点への移行に対応する「評価シート」を作成し、先生方に提供した。適宜、使い方についての注意点も伝えるようにした。【教務部】 ・学校評議員に学校評価を示し、意見を伺った。連携協定を結んでいる大学や博物館等との教育活動は2学期末時点では具体的に進んでいない。【校長】
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価を学校全体で取り組むことはできた。各分掌会議や担当に記入してもらうことで、管理職だけが知らないうちに作って教育委員会に出しているというものにならずに済んだ。【校長】 ・教師のさまざまな要望を取り入れながら、昨年度以上に充実した研修になったと考える。さらに特別支援の研修では、地域との連携も行うことができた。【研修部】 ・見通しを持って時間割を組んできたので、各教科の授業時間を不足なく取ることができた。新型コロナ変異株の流行によって厳しい状況もあったが、臨機応変に対応できた。【教務部】 ・3観点への移行、校務支援PCへの移行などがあったが、職員会議で情報を早期に提示しながら、新しいシステムを問題なく運用することができた。【教務部】 ・学校評議員会議は、本来であれば各学期に実施するべきものであるが、コロナ禍の中で各評議員の方に提言シートを提出してもらうことで済ませている。ただ、提出していただいた提言シートにはきちんと回答を添えた手紙を返信するようにしている。連携協定を結んでいる大学や博物館との教育活動については、具体的な活動にまで至っていない。【校長】
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価というのはどういうものかは理解が進んだと思う。今後も、人の入れ替わりがあるため、年度当初には全体で作っていくことを伝えながら、PDCAの活動であるため、今年度の課題を受けて次年度に引き継ぐ内容を、次年度の重点目標等を考えるときに、しっかり盛り込んで計画していきたい。【校長】 ・次年度も、先生方からのアンケートを集めながら、どんな研修が良いかを考えていく。【研修部】 ・ICTの活用に向けての研修を充実させていきたい。 ・学活や総合の時間が多くなる学年がある。それが教科の授業時間を圧迫しすぎないように、行事の精選や内容の検討など、見直しを行っていきたい。【教務部】 ・3観点の評価シートや校務支援PCの使い方などを、意識して文章で配布してきたので、それを使い方の申し送りや残し、来年度はそれを確認しながらスムーズな運用をしていきたい。【教務部】 ・学校評議員会議は、今後も外部の有識者等から意見を窺う貴重な機会なので、積極的に活用していきたい。また、今年度最後の3学期に会議が開催できてよかった。連携協定を結んでいる大学や博物館との教育活動は、常に意識しておき、より効果的な活動があれば、積極的に取り組みを進めていきたいと思う。【校長】

4. 教育自己評価

【教職員による評価】

教職員アンケート結果より、肯定的意見が非常に高い値を示した項目として、「指導方法の工夫改善に努めている」「意欲・理解力に応じた学習指導」「思考力を重視した学習」「グループ学習など学習形態の改善工夫」等があげられる。教職員自身は、授業改善を行っているのとらえている。また、「生徒の意見をよく聞き、保護者の願いに答えている」とらえている。生徒指導についても、家庭や関係機関との連携が取れており、学校行事等についても生徒が生き生きと学ぶことができるような学校づくりを行っているのとらえている。また、教職員研修についても肯定的意見が多く、計画的に研修が実施され、内容も充実しているのとらえている。

授業については、学校教育自己診断で生徒アンケートや保護者アンケートでわかりやすいという評価は低く、この認識のずれを分析して対応していく必要がある。より良い授業を進めていくためにも、意欲的に取り組みを進めていきたい。

では、肯定的意見が低かった項目は何かというと、教職員の問題と地域とのかかわりがあげられる。「教職員は、服務規律についての自覚が高く、法的遵守に心がけている」「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができていない」という項目が低い。教職員への不祥事防止の研修を行ったが、今後も教職員として服務規律を遵守する自覚ある行動を育むために、研修を継続していきたい。また、職場の人間関係ができていないことを感じているものが多いことから、何でも相談しあえる前向きな意見を言う人間関係の構築を今後進めていけるように取り組んでいく。

教職員の問題はこの学校の抱える最も大きな問題の一つであると思われる。次年度以降、今年度よりも教職員の意識改革を進めて働きやすい環境を作っていかなければならない。

「学校の教育活動において、奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている」「保護者や地域の人々と接する機会を多く持ち、開かれた学校となっている」という二つの項目も肯定的意見が低い。地域とのかかわりが低いということを教職員は自覚している。ボランティアや地域、奉仕、体験活動などは、今後本校がより積極的に実施していくべき教育課題であると考えられる。

以上のことから、次年度に向けて、教職員の不祥事予防の取り組みを継続していくとともに、今まで以上に地域に開かれた学校を目指して取り組んでいきたい。

【学校教育自己診断】

○保護者アンケートより

子どもは学校へ行くことや学校行事を楽しみにしており、部活動にも積極的に参加しているのとらえている。また、子どものプライバシーが守られていて、先生と家庭の連絡連携はしっかりできていると評価していただいている。しかし、授業については、わかりやすいという評価は低く、進路や生き方を考える指導についても評価は低い。学校施設設備に対しても評価は低い。自由記述の回答には、トイレの増築や改修を望む声が非常に多く、今後教育委員会や村役場に積極的に要望していく必要があると感じる。学校行事についてやりモート学習など様々な要望も出ていた。また、生徒指導や成績処理等についてのご意見もいただいた。今後の学校運営に活かしていきたい。

○生徒アンケートより

中学校へ行くのが楽しい。学校行事が楽しい。先生たちは間違った行動を厳しく指導してくれる。地震や火災など災害発生時の行動をきちんと知らされている。という4つについては、肯定的回答が非常に高く、生徒は学校に楽しんで来ていることが窺え、うれしく思う。そんな中「授業中、積極的に挙手したり、発言したりしている」という項目は肯定的回答が半数に満たない結果となった。また、「わかりやすい授業が多い」「授業でわからないことについて、質問しやすい先生が多い」という項目も肯定的回答は低く、授業改善が必要であることが見受けられる。「一人一人がわかりやすい授業。わからないことを質問しやすい授業。挙手発言、発表等がしやすい授業」などを目指して、次年度以降授業改善に取り組んでいきたい。

5. 学校関係者評価

学校評議員会議より

【1学期】

学校評価について、授業改革の実施や対話を重視した授業について意見をいただいた。また、大人の意見が反映されすぎているように感じるとか、地域の目を学校に向ける必要を感じるなどの意見もあった。まだまだ敷居が高いとの意見もあったので、今後も情報発信や積極的な連携を考えていきたい。

行事については、今ある行事の内容等の見直しや地域の方々と関わる行事を行ってはどうかというご意見をいただいた。また、ホームページが刷新され、見やすくなったというご意見とともに、プリント類をホームページ掲載にして、必要な事項はメールで送信する方向へ移行しても良いのではというご意見もあった。

【2学期】

コロナ禍の中であっても感染対策を十分に考慮しながら各学校行事を実施されているようで安心しております。というご意見とともに、コロナ禍で難しいが体育大会文化発表会の観客数規制解除等についての意見をいただいた。また、体育大会について、競技種目がもう少しあってもよいのではというご意見もいただいた。

日頃の学校生活について、生徒達の落ち着きが感じられるというご意見をいただいた。

生徒用トイレは改善が不十分で生徒にとって、学校生活を気持ちよく送るうえで大きな問題であるのご意見をいただいた。中学校の施設の中では、トイレが一番の課題である。今後村に要望をしていきたい。

【3学期】

1,2学期は提言書を提出していただく方法で実施していたので、3学期初めて集合して話し合う場を持った。

学校評価をもとにして、今年度の活動内容と自己評価を説明させていただいた。その中で、なかなか地域とつながっていけなかったことについては、コロナ禍の中で授業時数確保などがあると、地域人材を呼んで地域との交流を実施するのは難しいと思うという意見をもらった。また、中学校は進路というものがあるため、コロナ禍での学校運営でより忙しいのではないかとご意見もいただいた。塾などと違い、学校の存在は勉強だけじゃないので、子どもにとって重要な存在だなと感じるという意見をもらった。

リモート学習や校則、教職員の言動について意見をうかがった。リモート学習は家庭内で wi-fi 設置が 100%にはいつまで待ってもならないのではないかとご意見と、可能なことから始めればよいと思うし、家でネットにつなげられない生徒は学校に来てつなげればよいのではないかとご意見をもらった。また、校則については、生徒自身がよく考えて集団生活をしていくうえで何が必要なのか等話し合い、進めていければよいのではないかとご意見で、そのため先生たちは待っていて、見守ってあげてほしいという意見をもらった。

全体的に学校に対して肯定的な意見が多かった。来年度も、しっかりと学校情報を公開しながら、意見をもらってより良い学校運営につなげていきたい。

6. 第三者評価

実施していない。